

日本鉄鋼協会記事

理事會

- 第1回評議員会・第6回理事会** 開催日：12月20日。
出席者：武田会長ほか、55名。
1. 昭和55年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件。
事務局より資料にもとづき詳細説明がなされた。一般会計、別途資金会計および補助金事業会計が原案とおり承認された。
ただし総会に報告する決算額は2月末日で締め切つた後に確定するため、その内容は会計分科会に一任することになった。
 2. 昭和56年度事業計画、収支予算の件
資料原案どおり承認された。
 3. 次期理事、監事ならびに評議員候補者推薦の件
資料原案どおり承認された。

編集委員会

- 第7回編集運営委員会** 開催日：2月20日。出席者：田中委員長、ほか18名。
1. 昭和56年度依論文賞の選考を行つた。候補者として推薦された論文35件を対象に検討し、5件を受賞論文として決定した。
- 第12回和文会誌分科会** 開催日：2月6日。出席者：田中主査、ほか23名。
1. 17件の論文審査報告がなされ、掲載決定12件、照会后掲載決定1件、その他4件であつた。
- 第12回欧文会誌分科会** 開催日：2月13日。出席者：中村主査、ほか9名。
1. 11件の論文につき審査報告がなされ、掲載可1件、照会后掲載可6件、修正依頼4件であつた。
 2. 「鉄と鋼」より3件のReportおよびそれ以外の国内雑誌より2件の研究論文、1件のReportもしくはReviewを勧誘することとなつた。

共同研究会 総務幹事会

- 第2回幹事会** 開催日：11月17日。出席者：伊木幹事長、ほか19名。
1. 昭和55年度共研予算使用実績報告
 2. 昭和56年度共同研究会予算案審議
 3. 共研資料の機密性
 4. その他
 - (1) 「圧延に関する国際会議」報告
 - (2) 第4回日独セミナー報告

- 第21回コークス部会** 開催日：12月11日、12日。出席者：研野部会長、ほか120名。
開催地：小倉（三井鉾山コークス、中山製鋼、大阪ガス共催）

1. 共通議題Ⅰ「コークス品質とコークス炉操業の現状と問題点及び将来の展望」
2. 共通議題Ⅱ「その後のコークス部門における環境改善について」
3. 共通議題Ⅲ「コークス工場の省エネルギー対策」
4. 自由議題 4件
5. 特別講演「高炉コークス調製のための石炭炭化の機構と設計」

- 第77回製鋼部会** 開催日：11月21日、22日。出席者：山本部会長、ほか124名。
1. 場所 新日鉄・君津
 2. 議題
重点テーマ「連鑄比率の拡大（連鑄技術における内部品質向上技術）」
発表件数 6件
自由議題 発表件数 13件
内連鑄に関するもの 6件
その他 7件

- 第67回圧延理論部会** 開催日：11月21日、22日。出席者：岡本部会長、ほか137名。
開催地：川鉄・水島研修所
1. 議題 本部会は圧延理論に関する研究を自由に発表して討論を行つてゐる。第67回部会の研究内容をまとめると内容は以下のとおりである。
 - (1) 「圧延に関する国際会議」報告
 - (2) 圧延形状に関するもの……………9件
 - (3) 熱間圧延に関するもの（分塊・厚板）……………4件
 - (4) 薄板圧延に関するもの……………7件
 - (5) 条鋼・鋼管・線材に関するもの……………5件
- 工場見学：水島製鉄所の構内及び厚板・中形工場

鋼板部会

- 第51回分塊分科会** 開催日：12月4日、5日。出席者：鈴木部会長、梨和主査、ほか143名。
1. 場所 新日鉄・君津
 2. 議題

議題Ⅰ	操業調査表
議題Ⅱ	作業時間調査表
議題Ⅲ	条部門：「CPUシステムの紹介」 発表件数 15件
	板部門：「直圧及びホットチャージについて」 発表件数 13件
議題Ⅳ	自由議題 発表件数 条 15件 板 14件

- 第33回ホットストリップ分科会** 開催日：11月13日、14日。出席者：松田主査、ほか103名。
開催地：神鋼・加古川

1. 議題

(1) 操業状況調査 各工場の操業とりまとめ結果が新日鉄・大分より報告された。

(2) 工場概況説明 各工場より55年5月～7月の操業成績と概況説明が行われた。

(3) 共通議題
「ロール原単位向上」

(4) 自由議題
共通議題と同じ「ロール関係」のテーマにて12件の発表があった。

(5) 工場見学
加古川製鉄所の構内及び熱延工場

第32回コールドストリップ分科会 開催日：12月4日，5日。出席者：今井主査，ほか149名。

開催地：神鋼・加古川

1. 議題

(1) 操業状況調査表まとめ報告

(2) 自由議題アンケート「品質保証，検査，梱包」とりまとめ報告

(3) 自由議題「品質管理，品質改善に関する実施例について」各社発表

(a) 全般 3件

(b) 第1分科会
酸洗5件，冷延5件，形状プロフィール3件，計13件

(c) 第2分科会
表面疵3件，材料試験6件，ライン作業2件，計12件

(4) 工場見学
加古川製鉄所の構内及び冷延工場

第28回耐火物部会 開催日：11月27日，28日。出席者：三枝部会長，ほか62名。

開催地：神鋼・神戸

今回は取鍋用耐火物を統一テーマとしてとりあげた。

1. 第1セッション「取鍋用耐火物」発表5件

2. 第2セッション「取鍋関係」発表6件

3. 第3セッション「転炉関係」発表4件

4. 特別講演
「神戸製鉄所における製鋼用耐火物の現状について」

5. 工場見学 神鋼・神戸

第76回計測部会 開催日：11月20日，21日。出席者：藤田部会長，ほか151名。

場所：京王プラザホテル（電気化学計器，千野製作所共催）

1. 自由議題 31件が報告された。次回は住金・和歌山にて3月中旬開催の予定。

設 備 技 術 部 会

第23回鉄鋼設備分科会 開催日：11月27日，28日。出席者：羽鳥部会長，宮嶋主査，ほか110名。

新日鉄・名古屋にて開催

1. 議題

(1) アンケート「新頂圧タービン」

(2) 共通議題「水砕設備の保全上の問題点」

(3) 自由議題 3件

第23回圧延設備分科会 開催日：12月4日，5日。出席者：羽鳥部会長，ほか123名。

開催地：日立製作所・日立工場

1. 議題

(1) 共通テーマ「熱間圧延設備の腐食対策」

(2) 自由テーマ

・圧延設備における破壊防止保護設備の効果と問題点

・機械基礎グラウト施工について

・形鋼工場精整設備の改造について

・保全における設備診断の導入と応用事例について

・エアフラッシング法による環水系の性能維持について

(3) レクチャー

・溶接材及びクラッド材の疲労亀裂伝播

・リール巻締力の解析と実際

第9回電気設備分科会 開催日：11月13日，14日。出席者：羽鳥部会長，ほか123名。

開催地：神鋼・神戸

1. メインテーマ「マイクロコンピュータの適用実態と今後の動向」

2. サブテーマ

(1) 電気保全技術の教育体制について

(2) 大形交流電動機の故障実態調査

(3) 低圧回路地絡保護について

3. 自由発表

(1) 圧延設備における交流電磁接触器のSCRSW適用結果について

(2) 第1中径管カットオフマシン切断精度向上

(3) 高精度HMDの特性調査結果

(4) フープミル直流電源装置の更新

標 準 化 委 員 会

整合性調査特別委員会

第2回特殊鋼調査分科会 開催日：11月18日。出席者：光島主査，ほか13名。

1. JIS と ISO との整合性調査

(1) C表「JIS と該当国際規格の規定内容対比表」の作成結果の確認

(2) B表「JIS の整合性調査結果」の作成方針の検討

第3回特殊鋼調査分科会 開催日：12月18日。出席者：光島主査，ほか11名。

1. JIS と ISO との整合性調査

(1) 各 JIS の整合性調査結果 [B表] の確認。当分科会の対象 JIS 14 規格について，各委員より担当分の JIS と該当 ISO との整合性評価の判断基準とその考え方，結果の概要について説明があった。

(2) 調査結果の総括のまとめ方について。

ISO 鉄鋼部会

第49回SC4分科会 開催日：11月18日。出席者：

光島主査, ほか 14 名.

1. 5年後の定期見直し回答案の確認
- (1) ISO 683/Part 15
- (2) ISO 683/Part 16
- (3) ISO 683/Part 17
- (4) ISO 683/Part 18

以上4件のISOについて, いずれも見直し必要と回答することが承認され, 事務局で書類を作成し, 工業技術院へ提出することとした.

第50回 SC12 分科会 開催日: 11月21日. 出席者: 三佐尾主査, ほか7名.

1. 主査から, Letter symbol に関する日本コメント(案)の説明があり, 修正を加えて整理し, 書面審議にかけることになった.
2. ISO 5年ごとの規格見直しの検討.
- (1) ISO 3573
- (2) ISO 3574
- (3) ISO 3575

第6回 SC17 分科会 開催日 12月10日. 出席者: 光島主査, ほか10名.

1. ISO/TC17/SC17 第2回国際会議出席報告. 10月20日から24日の間, デュッセルドルフで開催された. SC17/WG1, WG2 及び SC17 会議での審議状況について各出席者より報告があり, 若干の質疑応答を行った.

国際鉄鋼技術委員会

第2回委員会 開催日: 11月21日. 出席者: 石原委員長, ほか12名.

1. IISI, TECHCO WG について報告があつた. 主要報告項目は以下のとおり.
- (1) エネルギー分科会
鋼管・篠田氏が委員となつて, 作業を行うことになった.
- (2) 第13回 TECHCO ミーティング
明年3月9, 10日オーストラリアメルボルンで開催される.
- (3) 操業データ交換
コークス, 焼結, 高炉, 転炉, 連鑄の操業データ交換を順次行う.

鉄鋼標準試料委員会

第4回常任委員会 開催日: 11月20日. 出席者: 川村委員長, ほか12名.

1. 標準値の決定
2. ISO/TC 102 内における JSS 試料を用いた国際共同実験結果
3. 機器分析用標準試料に関する懇談会の計画
4. 日本標準試料講習会の計画
5. 昭和56年度予算案の審議

第5回常任委員会 開催日: 12月12日. 出席者: 川村委員長, ほか12名.

1. 標準値の決定
2. 鋼中炭化物抽出定量用標準試料の頒布法

3. ほう素分析専用鋼シリーズについて
4. 鋼中ガス分析管理用試料
5. 強靱鋼及び肌焼鋼シリーズの整理統合
6. 試料調整スケジュール

ISO/TC17 事務局運営委員会

第3回総会準備委員会 開催日: 11月19日. 出席者: 田中委員長, ほか10名.

下記事項について報告および審議が行われた.

1. ISO/TC17 総会開催地および開催時期について
総会開催地: 東京, 開催時期: 1982年10月24日よりの週とすることを正式決定した.
2. 総会開催のための準備スケジュールについて
予算案確定時期を1981年6月目標とし, 現在のスケジュール案を見直すこととした.
3. 総会開催会場について
候補会場について調査を進め, 最終的に2月度のISO/TC17 事務局運営委員会において決裁を得ることとした.

第7回専門諮問部会 開催日: 11月19日. 出席者: 青木部会長, ほか18名.

下記事項について報告, 質疑応答が行われた.

1. 事務局定例業務
2. 重点業務項目進捗状況
本年度の重点項目は一応の完了を見, 今後は1981年度の項目に入れ替わる.
3. EC会議結果
事前準備も含め成功裏に終了した. 議事録および決議, また, TC17 委員会組織および鋼管規格作成に関する懸案事項の処理について, 内容, 背景等が報告された.
4. 1981年度事務局業務計画
事務局業務の中・長期展望および1981年度の主要業務計画が報告された.
5. TAG/WG 2-INSM 委員が決定された.

第6回運営委員会 開催日: 11月27日. 出席者: 石原委員長, ほか21名.

下記事項について報告および審議が行われた.

1. ISO/TC17 議長任命
青木朗 TAG 部会長が TC17 全会一致で3年議長に選任され, ISO 事務総長からの任命通知も届いた.
2. EC会議結果
日本幹事国主催の最初の会議であるが, 懸案事項の処理も含め, 成功裏に終了した.
3. 昭和56年業務計画基本構想
議長任期2期(6年)分の事務局業務の中・長期展望.
4. 昭和55年度決算予想および56年度予算大筋の合意を得, 今後最終調整を行い, 次回運営委員会で策定の運びとなった.

鉄鋼基礎共同研究会

第35回運営委員会 開催日: 12月8日. 出席者: 的場委員長, ほか22名.

1. 昭和55年度基共研会計実績報告

- 2. 昭和 56 年度基共研予算原案の説明
- 3. 各部会活動報告
- 4. 著作権について
- 5. その他

高炉内反応部会

第 14 回部会 開催日: 12月 5 日. 出席者: 大森部会長, ほか 26 名.

鋼管・本社にて開催

1. 今後の活動方針, (最終報告書等)について討論が行われた後, 報告討論が行われた, 発表論文, 報告は計 6 件であった.

高温変形部会

第 17 回部会 開催日: 12月12日. 出席者: 田村部会長, ほか 30 名.

1. 講演

(1) 高温高速試験圧延機による回復・再結晶挙動の実験的検討

(2) 316LN の熱間加工性

(3) オーステナイト系およびコエライト系ステンレス鋼の結晶粒度と熱間加工性の関係

(4) 鋼の凝固点直下における脆性について

(5) ステンレス鋼および耐熱鋳鋼の高温変形挙動

2. シンポジウム開催

「高温変形と高温破壊」

昭和 56 年 2 月 17 日 (火) 9:00~17:00

経団連会館 14F 経団連ホール

夏期講座案内

Analysis and Control of Residual Stresses in Weldments

期 日 1981 年 8 月 10~14 日
場 所 Massachusetts Institute of Technology, U.S.A.

主 催 Massachusetts Institute of Technology
詳細については, 下記宛お問い合わせ下さい.
Prof. Koichi Masubuchi
Director of the Summer Session
Room E19-356, M. I. T.
Cambridge, MA 02139
U. S. A.

The Third International Conference on Energy Use Management

- 1. 期 日: 1981 年 10 月 26~30 日
- 2. 場 所: Berlin, Germany
- 3. 主 催: The Interdiscipling Group for Enology, Development and Energy (EDEN)

なお, 詳細は下記までお問合せ下さい.

Craig B. Smith
EDEN
P. O. Box 64369
Los Angeles, California 90064
U. S. A.

正 誤 表

「鉄と鋼」66 (1980) 13, pp. 1781~1790

「コークスのブードワ反応速度におよぼすカリウムの影響」

小林 三郎・大森 康男

ページ	訂正箇所	誤	正
1786	式 (34)	$j_D = k_f P y_{CO_2, f} \cdot Sc^{2/3} / G_M$	$j_D = k_f P y_{CO_2, f} Sc^{2/3} / (G_M R_g T)$